

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (33)



～ 自己肯定感を育てる教育活動を目指して～

伊原間中学校 校長 仲吉 永克

伊原間中学校の教育活動は、スクールバスの下車から始まります。13集落から、2台のスクールバスと1本の路線バスを利用し、遠くは平久保、野底、大里と、約30km範囲から生徒達は登校して来ます。学校の屋上から周囲を見わたすと、東西に広がる太平洋と東シナ海の大海原が一望できます。また、南の金武岳、北のハンナ岳に本校は挟まれ、自然に恵まれた環境の中で教育活動が行われています。

さて、バスで通学する本校の生徒達は、授業を終えると殆どの生徒が放課後の部活動に励み、下校バスの時刻まで精を出します。スポーツ面でも学習面でも活躍しています。全国学力・学習状況調査でも、全国平均を上回る成績です。

毎年実施されている沖縄県生徒質問紙調査によると、「自分には良いところがある」という質問に対して、本校の生徒は学年を進むにつれて否定的に回答する傾向が見られました。

授業の一場で、学習内容が「できた」「分かった」という達成感を生徒に実感させることは、生徒の自己肯定感を高めることにつながります。そこで、伊原間中学校では、各教科の学習において主体的・対話的な活動を重視し、生徒の意欲・態度などを喚起するための「励まし」や「ほめ言葉」を大事にしています。知識や技能を吸収するという受け身の学習ではなく、生徒が理解できるようにスモールステップで学習に臨ませることで、生徒自らが主体的に考えていくプロセスを大事にした学習を目標にしています。現在、教職員が協力して、生徒が興味・関心を持って学習に積極的に臨み、主体的に最後まで追究するような授業づくりに取り組んでいます。

これまでは、多くの生徒にとって「問題は与えられたもの」であり、一つ問題を解いてそれで終わってしまっていました。これからは、自らが持っている豊かな創造性・発想が活かされるような授業の展開を求められています。問題が解けた喜びを抱かせることで、自己肯定感が醸成されていくと考えています。

伊原間中学校では、全員入部制(バドミントン部、バスケットボール部)を奨励しています。12月に開催された八重山地区新人総合体育大会男子バスケットボール競技では、大浜中学校との合同チームで出場し連覇を成し遂げました。部活動では個人の運動能力が発揮でき、競技力の高まりで興味・関心もさらに高まります。公式試合で勝利を重ね、優勝を経験することは、自己肯定感を高めることにつながります。

時として、生徒は日々の練習や走り込みの辛さで気力を失い、無力感や自己否定感を抱く状況に陥ることもあると思います。そのような時は、監督やコーチがその生徒の特性を理解した上で声かけし、生徒との共通の目標に向かって努力する過程で共に汗を流しながら高め合うようにしています。生徒自身が一番頑張ったところを教師が見い出し、具体的にほめることで生徒を認める。そして、次の目標にも言及し、学習意欲につなげていく。ただほめれば良いのではなく、どのタイミングでどのようにほめるかが、教師に課せられた使命の一つになっています。

雄大な恵まれた自然環境で学ぶ生徒一人ひとりにとって、これから歩みだす社会には高い壁がたくさんあるかもしれません。生徒が踏み出す小さな一歩が、夢実現に向けた歩みとなるよう、本校教育目標

「心豊かに、たくましく生きる北部健児」を掲げ、職員、PTA、地域公民館が一体となった協働体制で取り組んでいきたいと考えています。今後も、自立心・協働性・創造性を備えた生徒の自己肯定感を育てる教育活動に邁進してまいります。